

エピソード47

勉強の話を保護者が 避けています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



保護者から小学校で学級担任をしていた時の経験をお聞きます。

私が、40代で高学年の学級担任をした時、学級に学習の遅れが積み重なっているちひろさんという女の子がいました。

学習の遅れはありましたが、気持ちのやさしい子だったので友達も多くクラスの中では孤立している状態ではありませんでした。





保護者から、学習のことで
相談はありましたか。

前の担任から、面談時に学習面での相談はしま
したが、突っ込んだ話をお母さんは避けていた
と聞いていました。

私が担任になり、個人懇談の時、お母さん
には、気持ちの優しさと友達の多さを話して、
学習については遅れている事実を話しました。





その時、お母さんはどのような
様子でしたか。

最初はちひろさんは家でも優しいところがあっ
て、親として助かっている、友達が多いから多
少勉強ができなくても心配ないとか、

家庭内でお手伝いもするし、近所のおじいちゃ
ん・おばあちゃんからも好かれているとか、
良さをたくさん話していました。





そうですか、勉強の話はあまり
しなかったんですね。

勉強の話は避けていました。私は、保護者の
話を聞こうと思ったので、お母さんの育て方が
よかったんですねとか、合いの手を入れながら
聞いていました。

そうしますと、途中からお母さん自身の話に
なったんです。





お母さん自身のことですか。

お母さんは小学校中学校時代に、勉強ができなくていじめられていたという話になりました。お母さんの話ではありましたが聞き役に徹しました。

お母さんが一通り話をした後、先生、私の話まで聞いてくれてありがとうございますと言って、喜んでいました。





先生は、お母さんの話をどう受け止めたのですか。

ちひろさんの話ができたこと以上に、お母さんは自分の経験を話せたことも大きかったかなと思いました。

私もちひろさんの学習の話にはならなかったけど、お母さんとの関係性が築けたからよしとしようと考えました。





その後、先生はどう対応したのですか。

いつでも話を聞きますよと伝えました。そして
スクールカウンセラーという制度があってお母
さんの悩みも聞いてもらえますよと話しました。

お母さんは、スクールカウンセラーの制度を、
良く理解していなかったようなので、少し悩ん
でいましたが、カウンセラーさんに会ってみたい
と言いました。





先生は、すぐに手続きをとったんですね。

はい、お母さんはカウンセラーの先生はとてもいい人だと喜んでいました。

お母さんの生い立ちから、ちひろさんの育ちのことも話したそうです。その後、関係機関とつながり、ちひろさん、お母さんにとっても良い方向に進みました。





なみちゃんの一言

- 担任一人だけで悩むのではなくて、スクールカウンセラー制度の話を保護者に伝えたことで、子どもの支援につながって良かったなと思いました。
- 教師は保護者よりも年齢が上かまたは同じぐらいになると、個人懇談時に子どものことを通して保護者自身の話を聞くこともあると言われています。
- 保護者の中には、さまざまな問題を抱えている人もいます。そして、保護者に支援が必要なこともあります。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)